

郷土館発

戦争だった頃を訪ねてみませんか

先日、名古屋の人が郷土館の見学に来ました。依頼に応じて館内の案内をしました。

昭和二十年生まれの方です。

彼は、歴史コーナーの最後で立ち止まり

「母を思い出すなあ」

と、しみじみ語りました。歴史コーナーの最後は「戦争」です。

彼の父は軍人で、名古屋の空襲で戦死しました。その時、母のお腹にいたのが彼です。父の死から程ない戦後、彼が誕生しました。母の悲しみと彼の誕生を思い、さらに戦後の親子の生活を思う時、

「母を思い出すなあ」

の一言に無限の重さを感じます。

昭和十九年十二月十日

三日は、名古屋空襲でした。

七月二十日は、岡崎

空襲。

八月七日は、豊川海

軍工廠空襲でした。

そして、八月十五日、

終戦。

「愛国」、「聖戦」

などの言葉におどらされ、悲劇への道をたどった時期でした。

戦後六十二回目の夏を迎えます。戦争体験を語れる人も少なくなってきました。

郷土館には、戦争に関わる展示物が約八百点あります。

これからは地元の方々からの寄贈品です。それら一つ一つに平和への願い、反戦への思い、非戦への思いが寄せられています。

この夏、郷土館の約八百点の品々と対面し、家族や友人と平和について語り合ってみませんか。

(奥三河郷土館 加藤紘市)

